

活 動 報 告

日本語・日本事情(1995年4月～1996年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

授 業 科 目	開単 位 設数	学 期 別 週 授 業 時 数			備 考
		前 期	後 期	通 年	
◎日本語初級Ⅰ	1	2	2		広島大学外国人 留学生のための授 業である。 日本語初級Ⅰか ら日本語中級Ⅴま では通年の授業で はない。 ◎印の授業は西 条、霞の両地区で 開講。
◎日本語初級Ⅱ	1	2	2		
日本語初級Ⅲ	1	2	2		
◎日本語中級Ⅰ	1	2	2		
◎日本語中級Ⅱ	1	2	2		
日本語中級Ⅲ	1	2	2		
日本語中級Ⅳ	1	2	2		
日本語中級Ⅴ	1	2	2		
日本語中級Ⅵ	2	2	2		
日本語中級Ⅶ	2	2	2		
日本語中級Ⅷ	2	2	2		
日本語上級Ⅰ	2	2	2		
日本語上級Ⅱ	2	2	2		
日本語上級Ⅲ	2	2	2		
日本語上級Ⅳ	2	2	2		
日本語上級Ⅴ	2	2	2		
日本語上級Ⅵ	2	2	2		
日本語上級Ⅶ	2	2	2		
日本事情Ⅰ	2	2	2		
日本事情Ⅱ	2	2	2		
日本事情Ⅲ	2	2	2		
日本事情Ⅳ	2	2	2		
日本事情Ⅴ	2	2	2		
日本事情Ⅵ	2	2	2		
日本文化	2	2	2		
日本語特講	15		30		

2. 授業内容

(西条キャンパス)

授 業 科 目	開 設 学 期	担 当 教 官
日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期・後期	深見兼見・中川正弘・今田滋子
<p>目標 かなおよび初歩的な文法、簡単な漢字の読み方を習得させる。</p> <p>内容 初歩的な文法事項の説明、文章音読練習（文法の理解を兼ねる）、口頭および筆記による文型練習。</p>		
日本語中級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	前期・後期	浮田三郎・中川正弘・渡辺久美
<p>目標 初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。</p> <p>内容 短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。</p>		
日本語中級Ⅳ・Ⅴ	前期・後期	大槻温子・渡部浩見
<p>目標 中級レベル前半を終えた学生を対象とし、主に読解力を身につけることを目的とする。</p> <p>内容 教科書に添って、毎回ひとつのテーマを中心に読解、文章表現の練習をする。あわせて、漢字、文章の書き取り、短い作文の練習など、学生の日常生活に役立つ文章語の表現能力を養う。</p>		
日本語中級Ⅵ	前期	中川正弘
<p>目標 人に伝えたい考えや気持ち、言葉で表したい内容を日本語で表現する能力を高める。</p> <p>内容 「読む」、「聞く」など、受動的な学習に偏りやすい中級日本語学習者の日本語運用能力がどのようなものであるかを提出させる作文によって確認し、そこに現れる間違いの分析によって、文法の理解を正すと同時に、上級日本語、さらには日本人の日本語に近づくために、日本語について文法以外にどんなことを知らねばならないかを考えていく。</p>		

日本語中級Ⅶ・Ⅷ	前期	田村泰男
	後期	下村真理子
<p>目標 中級Ⅳ・Ⅴまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけさせる。</p> <p>内容 読解力の文章を読むことによって、既習の文型・語彙・表現を整理し、併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際、口頭練習で定着をはかるとともに、書き言葉に属する言い回し、或いは文型を「書く」作業によって練習し、文章レベルでの理解をはかる。これらの作業の後、教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行う。</p>		
日本語上級Ⅰ	前期・後期	深見兼孝
<p>目標 時事日本語の聴解能力養成。あわせてそれに特有の語彙・表現を学習する。</p> <p>内容 A. 時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。さらに重要語句の使い方について練習する。 B. ニュースを聞き、i) その内容を理解する練習を行う（後にそれを文字化したものを読み、理解をチェックする）。ii) スクリプトの完成を行う。</p>		
日本語上級Ⅱ	前期・後期	中川正弘
<p>目標 日本語における「表現」のさまざまな側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。</p> <p>内容 文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削し返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言語の問題、誤用の分析、また言葉の「選び」などに表れた日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔てているものが何であるか検討してゆく。</p>		
日本語上級Ⅲ	前期・後期	多和田眞一郎
<p>目標 日本人のものの見方・考え方について理解を深めるとともに、それを題材とする討論により（日本語の）口頭表現能力を高める。</p> <p>内容 「オモテとウラ」「ウチとソト」「ホンネとタテマエ」などの日本人のものの見方・考え方、行動様式に関して記述された文章を読む。また、「文化」をいかに捉え、理解すべきかについても考察を加える。</p>		

日 本 語 上 級 IV	前期・後期	田村泰男
<p>目標 慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力・文章表現力を養わせる。併せて言語表現の背後にある日本の文化や社会現象についての知識を身に付けさせる。</p> <p>内容 主として新聞の「経済」「政治」「社会」「文化」面から、日本の実社会をはんえいしている題材や身近な題材をとり、それに漢字の読み書き・慣用句の意味・文法などを問題として加えて編集したものをテキストとして用いる。授業では、まず「読める」ことを第一とし、次に個々の文章の意味が正確に理解できるように語彙の意味、表現を整理していく。これらの作業の後、題材についての説明を行い、クラスでその内容についての討論を行う。</p>		
日 本 語 上 級 V	前期・後期	山中康子
<p>目標 日本語の総合的能力を高める。</p> <p>内容 毎回トピックを決め、それに関する新聞、雑誌、テレビ番組などをとりあげる。その理解を通して、「話し、書き、聞き、読み」の四技能をのばし、具体的な話題やテーマに則した日本語でのコミュニケーション能力を育てる。</p>		
日 本 語 上 級 VI	前期・後期	大槻温子
<p>目標 日本語の総合的能力を高める。</p> <p>内容 視聴覚教材（テレビの教養番組・ドラマやラジオ番組の音声テープとそのスクリプト）を用い、日本語の自然な会話に触れながら、スクリプトをもとに語彙・文法・構文・イントネーションなど、いろいろな角度から検討し、理解を深める。</p>		
日 本 語 上 級 VII	後期	奥田邦男
<p>目標 日常使用される自然な日本語の聴解能力を高め、さらに社会的コンテキストで適切に使用できる会話能力を高める。</p> <p>内容 テレビドラマのビデオ教材を中心に、日本語のあいさつ表現、慣用表現、省略表現などの特質を検討する。日本語の表現と各自の母語の表現との類似点・相違点について話し合う。</p>		
日 本 事 情 I	前期・後期	浮田三郎
<p>目標 日本の諺を学ぶことにより（時には世界各国の諺と対照比較して）、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す。</p> <p>内容 日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などを学習する。各国の諺がもっているテーマやそこで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるように自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。</p>		

日 本 事 情 II	前期・後期	西川節行
<p>目標 日本をよりよく理解するために必要な、日本の文化、社会に関する知識を学習する。</p> <p>内容 留学生の関心、希望を勘案して、テーマを選定するが、出来るだけ、現在の日本の社会の動きを、そのまま反映するようなテーマとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本をより深く理解するための知識として、現代の日本の産業、経済、経営と諸問題、或いは現代の日本の政治、社会、文化と諸問題など。 2. 広島をよりよく理解するための広島事情。 3. 日本についての歴史、社会、文化など基礎的な知識。 <p>なお、機会をみて、県庁、市役所などの公共施設や、企業など経済施設の見学を行う。</p>		
日 本 事 情 III	前期・後期	今石正人
<p>目標 日本映画を通して、歴史・社会・文化・時代について理解を深める。</p> <p>内容 「羅生門」「生きる」「東京物語」「砂の女」「心中天網島」「寅次郎夕焼け小焼け」「家族ゲーム」を鑑賞し、質疑応答、ディスカッション形式で意見の発表・交換をする。</p>		
日 本 事 情 IV	前期	下村真理子
<p>目標 現代日本の社会問題、時事問題を通して現代社会、日本人について考える。あわせて生きた日本語運用力を高める。</p> <p>内容 留学生からの希望テーマも考慮し、新聞もVTRなどを用いて授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞、雑誌を用いて、現代日本の諸問題を討議する。 2. ドラマを見て、日本人の生きがい、心について考え、作文を書く。 		
日 本 事 情 V	前期・後期	倉地曉美
<p>目標 留学生の異文化理解に不可欠な総合的コミュニケーション能力の促進と視野の拡大を図る。</p> <p>内容 日本事情の諸問題について演習形式で授業を進める。又、受講者は担当者と共にジャーナルの交換を行い、日本語の書き言葉によるone-to-one communicatioを体験する。</p>		
日 本 事 情 VI	前期	水町伊佐男
<p>目標 パーソナルコンピューターと日本語ワープロを使い、日本語の発音・文字・表記の問題を中心に日本語使用について学習する。</p> <p>内容 パソコンの基本操作を学習したあと、文字入力と漢字変換の作業をしながら、清音・濁音・半濁音、促音、撥音、拗音・直音、長音、音訓、連濁、四文字熟語、同訓異字、接頭辞、カタカナ表記などの問題を考える。更に、各自の名刺作り、年賀状(暑中見舞い)の作成などにより日本文化を考える。また、授業の感想などをワープロで書いて提出してもらい、レポート作成の基礎を学習する。</p>		

日本語特別講義	後期	多和田・浮田・中川・深見・田村 ・大槻・渡部・鴨瀬・佐藤・山本
<p>目標 日本語の音声、文字（かな、漢字380字）に習熟し、日本語能力の基礎となる文法、語彙（1,400語）を体系的に習得する。</p> <p>内容 質・量ともに相応の教科書、補助教材を用い、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」能力をバランス良く伸ばすための集中的な学習を行う。</p>		
日本文化	前期・後期	多和田・浮田・中川・深見・田村
<p>目標 日本文化のさまざまな側面について、より深い知識と理解を得させる。</p> <p>内容 日本の社会問題、現代および伝統文化、日本人の行動様式や思考等に関する講義、文化施設への見学等。</p>		

(霞キャンパス)

授業科目	開設学期	担当教官
日本語初級Ⅰ・Ⅱ	前期・後期	山中康子・渡部浩見
<p>目標 日本語を初めて学ぶ学生に、発音、文字、会話、基本文型を教える。</p> <p>内容 ひらがな、カタカナの発音、表記から始め、漢字、数量の表現、単純な構文、初歩的な会話を、指定の教科書に添って学習・練習し、同時に基本文法を学ぶ。受講生の状況に応じて必要な範囲で英語を媒介言語とする。</p>		
日本語中級Ⅰ・Ⅱ	前期・後期	内藤祐子・渡部浩見
<p>目標 ごく初歩の日本語を終えた学生の日本語の運用能力（聞く・話す・読む・書く）を高める。</p> <p>内容 初級で学んだ日本語の基礎を応用できるよう学生が日本語で質問、応用する機会を多くつくる。更に少し複雑な表現、文型になじむようパターン練習を繰り返し行い、基礎文法の仕上げをする。授業は教科書に添って行われるが、必要に応じて復習と応用練習をする。</p>		

日本語日本文化研修プログラム

深見兼孝

広島大学では、昭和60年度より日本語日本文化研修留学生を受け入れているが、昭和62年度より特別経費の交付を受け、「日本語日本文化研修プログラム」を開始し、現在に至っている。このプログラムは、日本語研修（「日本語日本事情」で開設されているクラスから選択）、指導教官のもとでの課題研究、日本文化特別講義・見学プログラムからなる。平成5年度後期及び平成6年度前期の日本語日本文化特別講義・見学プログラムの概要は、次の通りである。

なお、研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出することになっている。留学生センターはそれらのレポートをまとめレポート集として刊行する。

平成6年度後期

- 10月28日（金） 映画上映
- 11月4日（金）－5日（土） 見学 広島市内
- 11月11日（金） 講義 現代の日本の女性問題（IWAD 平田富美子）
- 11月18日（金） 映画上映
- 11月25日（金）－26日（土） 見学 岩国市・宮島
- 12月2日（金） 講義見学 西条の歴史（郷土史家 飯田米秋）
- 12月9日（金） 見学 広島刑務所
- 12月13日（火） 講義 日本の方言Ⅰ－概説－（広島文化女子短期大学 高永茂）
- 12月16日（金） 講義 日本の方言Ⅱ－沖縄方言－（教育学部 町博光）
- 1月13日（金） 講義 日本の建築（工学部 鈴木充）
- 1月20日（金） 見学 マツダ
- 1月27日（金） 講義 日本文学（教育学部 相原和邦）
- 2月3日（金） 映画上映
- 2月16日（木）－18日（土） スキー実習
- 3月2日（木）－4日（土） 見学実習 日本の陶芸（陶芸家 川原浩二）

平成7年度前期

- 5月12日（金） 見学 酒蔵
- 5月26日（金） 見学 筆作り工場

6月9日（金） 見学 そごう坂配送センター

7月7日（土）－8日（日） 似島キャンプ

9月8日（金） 終了式・懇談会

前回は引き続き、実習を取り入れるなどして、前半の比重を重くした。後半は諸般の事情から月に1度くらいのペースまで軽くしてみた。また、映画上映はここに挙げているもののほかにも、金曜日に空き時間があればその時間を利用して行った。次回もこの路線を路襲するつもりである。

日本語研修コース

中 川 正 弘

【修了者】

第二十期 (1995年 4月～95年 9月) (14名)

氏 名	クラスでの 呼 び 名	国	生年	専 攻	専門教育
Sharp, Alice	ア リ ス	タ イ	1970	環 境 学	広島大学
Ng, Kit Yoong	キットユーン	マレーシア	1965	教 育 学	〃
Mai, Huy Quang	マ イ	ヴェトナム	1962	教 育 学	〃
Theingi Kyaw	チ ョ ー	ミャンマー	1963	無 機 化 学	〃
Estebenez Perez, Belen	ベ レ ン	ス ペ イ ン	1967	生 物 学	〃
Thaiprasart, Nophawit	ノパウイット	タ イ	1974	機 械 工 学	〃
Tia, Weeraya	テ ィ ア	タ イ	1968	土 木 建 築 工 学	〃
Babiker, El Fadil El Fadl	バビキロ	ス ー ダ ン	1962	農 芸 化 学	山口大学
Nara Pereira, Eva Megumi	エ ヴ ェ	パラグアイ	1969	獣 医 学	〃
Abdul Razaq	ラザック	パキスタン	1961	生 物 資 源 学	愛媛大学
Dorji, Sangay	サ ン グ	ブ ー タ ン	1964	生 物 資 源 学	〃
Manege, Ludovick Christian	マ ネ ゲ	タンザニア	1960	応 用 化 学	高知大学
Estu Nugroho	エ ス テ ユ	インドネシア	1965	水 産 学	〃
Perez Enriquez, Ricardo	リカルド	メキシコ	1961	水 産 学	〃

第二十一期 (1995年10月～96年 3月) (15名)

氏 名	クラスでの 呼 び 名	国	生年	専 攻	専門教育
Sinogaya, Jonnifer Rafal	ジョニファー	フィリピン	1965	環 境 科 学	広島大学
Mbodouma, Victor	ヴィクトール	ガ ボ ン	1967	教 育 学	〃
Gomez, Gloria Angelica	グ ロ リ ア	アルゼンチン	1963	生 物 学	〃
Herrera, Lourdes Rosario	ル ル デ ス	ペ ル ー	1967	保 健 衛 生	〃
Khan, Md. Mukhlesur Rahman	カ ー ン	バングラデシュ	1969	水 産 学	〃
Abdullah, Rashid	ラ シ ッ ド	マレーシア	1962	行 政 国 際 関 係	〃
Dekyi, Sammy	サ ミ	ガ ー ナ	1960	生 物 資 源 科 学	島根大学
Ibrahim, Mohd Adly	ア ド リ ー	マレーシア	1967	環 境 化 学 工 学	山口大学
Kondorosi, Gabor	ガ ボ ール	ハンガリー	1970	天 文 学	〃
Marakkala Manage Pathmalal	パトマラー	スリランカ	1965	生 物 環 境 保 全 学	愛媛大学
Ng, Tian Ching	デイヴィッド	マレーシア	1969	経 済 学	広島経済大学
Nyo Nyo Than	ニウニウ	ミャンマー	1961	教 育 学	島根大学
Sasuman, Julieta Millan	ジュリエッタ	フィリピン	1963	教 育 学	〃
Komenirdphol, Somchit	ソムチット	タ イ	1961	教 育 学	高知大学
Denardi, Marta Maria	マ リ ア	ブラジル	1962	教 育 学	〃

日本語研修コース第20期（1995年度前期）成果報告

期 日	授 業 内 容 等	特 別 研 究 指 導 等	備 考
0 4/12 (水)	開講式 (11:00) オリエンテーション(11:30~12:00)		(ホストファミリー) (1:00~1:30)
1 4/12~ 4/14	面接、発音、ひらがな、 初歩文型	4/14 健康診断 (午前)	4/12 (1:30) クラスはじめ
2 4/17~ 4/21			
3 4/24~ 4/28		4/28、29 広島市	4/29 公休日
4 5/ 1~ 5/ 5		5/1、2 (代休)	5/3、4、5 公休日
5 5/ 8~ 5/12			
6 5/15~ 5/19	試験① 5/16 (火)		
7 5/22~ 5/26		5/26、27 岩国、宮島	
8 5/29~ 6/ 2			6/1 「専門用語解説」開始
9 6/ 5~ 6/ 9			
10 6/12~ 6/16			
11 6/19~ 6/23		6/23 マツダ	
12 6/26~ 6/30	試験② 6/28 (水)		
13 7/ 3~ 7/ 7	7/8、9 似島合宿		
14 7/10~ 7/14			
15 7/17~ 7/21	試験③ 7/21 (金)		
	7/24~ 8/31 夏季休業 (夏休み)		
16 9/ 1~ 9/ 1			
17 9/ 4~ 9/ 8			
18 9/11~ 9/15	試験④ 9/12(火) 特 別講義		9/15 公休日
19 9/18~ 9/19	特別講義		
00 9/20 (水)	成果発表、修了式		

日本語研修コース第21期（1995年度後期）成果報告

	期 日	行 事 ・ 試 験 等	特 別 研 究 指 導 等	備 考
0	10/18	開講式 (11:00)		
1	10/18~10/20	面接、発音、ひらがな、 初歩文型	10/19 (木) 午後 健康診断	
2	10/23~10/27			
3	10/30~11/ 3		11/3・4・5 大学祭	11/3 (金) 公休日
4	11/ 6~11/10		11/10 広島市	
5	11/13~11/17	11/16 (火) 第一回試験		
6	11/20~11/24			11/23 (木) 公休日
7	11/27~12/ 1		12/1 岩国	
8	12/ 4~12/ 8			
9	12/11~12/15			12/7 (木) 「専門用語解説」開始
10	12/18~12/22	12/19 (火) 第二回試験		
	12/25~ 1/ 5	冬季休業		
11	1/ 8~ 1/12			
12	1/15~ 1/19			1/15 (月) 公休日
13	1/22~ 1/26			
14	1/29~ 2/ 2	2/1 (木) 第三回試験	2/2マツダ工場見学	
15	2/ 5~ 2/ 9			
16	2/12~ 2/16			2/12 (月) 公休日
17	2/19~ 2/23			
18	2/26~ 2/29	2/26 (月) 第四回試験 特別講義		
00	3/1	成果発表、修了式		

日本語研修コース関係講師一覧

第二十期 (1995年4月～95年9月)

専任	多和田 眞一郎 田村 泰男	浮田 三郎 橋本 敬司	中川 正弘	深見 兼孝
非常勤	今石 正人 松尾 馨 出口 博則 吉田 将之	鴨瀬 昌幸 北村 光孝 西川 節行	谷口 秀治 熊丸 尚宏 二宮 皓	藤井 ゆき 佐々木 正治 福島 博

第二十一期 (1995年10月～96年3月)

専任	多和田 眞一郎 田村 泰男	浮田 三郎 橋本 敬司	中川 正弘	深見 兼孝
非常勤	今石 正人 松尾 馨 北村 光孝 深沢 清治 吉田 将之	鴨瀬 昌幸 石橋 昇 出口 博則 福島 博	谷口 秀治 遠藤 一太 中遠 啓示 文柄 烈	藤井 ゆき 岡田 樟雄 西川 節行 松本 憲尚

教員研修留学生コース (1994年10月～1995年9月)

峯 正 志

I. 研修プログラム概要

A 教育学

- 1) 教育学、心理学、教科教育学に関する英語による講義演習。(一年)
- 2) 授業参観、特別活動見学をはじめ、その他各種の教育施設、社会教育施設の見学。
(一年)
- 3) 課題研究－指導教官の下で、各自の研修テーマを研修。(一年半)

B 日本文化、日本事情 (一年)

- 1) 日本文化、社会に関する多方面からの講義、実習
- 2) 文化活動に参加、各種文化施設の見学。

C 日本語教育

- 1) 日本語特講 (初級～中級レベル)。(6カ月)
- 2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス。(学生の能力、必要に応じて)

D 研修論文およびアブストラクトの作成。

II. 研修プログラム内容

A 教育学

1) 講義・演習

- 1994/12/16 (金) 「各国の教育事情」教育学部教授 二宮 皓
1995/ 1/30 (月) 「日本の教育制度」学校教育学部助教授 林 孝
1995/ 2/17 (金) 「日本の高等教育」留学生センター助教授 田畑佳則

2) 学校・教育施設見学

- 1994/11/11 (金) 東広島中央公民館・東広島中央図書館
1994/12/ 1 (木) 広島大学附属幼稚園
1994/12/ 6 (火) 広島大学附属小学校・広島大学附属中学校・広島大学附属高等学校
1995/ 2/ 2 (木) 広島市教育センター・広島県教育委員会
1995/ 6/ 2 (金) 広島市立広島養護学校
1995/ 6/15 (木) 呉工業高等専門学校
1995/ 7/ 5 (水) 広島朝鮮中・高級学校・広島YMCA学園

B 日本文化・日本事情

1) 講義・演習

- 1995/ 1/19 (木) 異文化間コミュニケーション・セミナー

2) 見学

- 1994/11/ 4 (金) -11/ 5 (土) 広島市内見学
1994/11/25 (金) -11/26 (土) 岩国・宮島見学旅行
1995/ 1/20 (金) マツダ
1995/ 2/10 (金) - 2/11 (土) 尾道市

C 日本語教育

2 日本語特講 (1994年10月～1995年2月。週平均30時間)

	9:45-10:30	10:50-12:20	13:10-14:40	15:00-16:30
月	中川	中川	下村	浮田
火	多和田	鴨瀬	浮田	大槻
水	多和田	渡部	大槻	渡部
木	多和田	浮田	鴨瀬	田村
金	・・・	藤川	縫部	浮田・中川

多和田眞一郎 広島大学留学生センター教授
 浮田三郎 広島大学留学生センター教授
 中川正弘 広島大学留学生センター助教授
 深見兼孝 広島大学留学生センター助教授
 縫部義憲 広島大学教育学部助教授
 藤川信夫 広島大学教育学部講師
 大槻温子 広島大学教育学部非常勤講師
 鴨瀬昌幸 広島大学教育学部非常勤講師
 下村真理子 広島大学教育学部非常勤講師
 渡部浩見 広島大学教育学部非常勤講師

2) 上記以外の日本語・日本事情のクラス (1995年4月～1996年3月。能力と必要に応じて選択)

D その他

1994/12/9 (土) - 12/11 (日) インターナショナル・ユース・セミナー
 国立江田島青年の家

1995/2/22 (水) - 2/24 (金) 研修旅行 (高松市・琴平町・岡山市)

1995/7/8 (土) - 7/9 (日) 青少年との国際交流キャンプ “BIG JAMBOREE”
 (広島市似島臨界少年自然の家)

日本語教育に関するその他の活動

橋 本 敬 司

1 映画上映

留学生の日本語教育・日本文化教育の一環として、今年度より下記の日程で映画の上映を行った。特に7月8月は原爆と戦後50年に合わせて、『黒い雨』・『明日-Tomorrow』を上映した。

1995年前期

- 5月19日(金) 13:00～『つぐみ』
- 6月2日(金) 13:00～『その男凶暴につき』
- 6月16日(金) 13:00～『夢二』
- 6月30日(金) 13:00～『ミンボーの女』

1995年夏休み

- 7月13日(木) 13:00～『2001年宇宙の旅』
- 7月14日(金) 13:00～『用心棒』
- 7月17日(月) 13:00～『惑星ソラリス』
- 7月18日(火) 13:00～『利休』
- 7月20日(木) 13:00～『東京上空いらっしゃいませ』
- 7月24日(月) 13:00～『テス』
- 7月25日(火) 13:00～『フライド・グリーン・トマト』
- 7月26日(水) 13:00～『ブレード・ランナー』
- 7月27日(木) 13:00～『ヤング・フランケンシュタイン』
- 7月31日(月) 13:00～『黒い雨』
- 8月1日(火) 13:00～『明日-Tomorrow』
- 8月7日(月) 13:00～『バグダッド・カフェ』
- 8月8日(火) 13:00～『家族ゲーム』
- 8月9日(水) 13:00～『渋滞』
- 8月10日(木) 13:00～『大誘拐』
- 8月22日(火) 13:00～『お葬式』
- 8月23日(水) 13:00～『大病人』

- 8月24日(木) 13:00～『シコふんじゃった』
- 8月25日(金) 13:00～『居酒屋兆治』
- 8月28日(火) 13:00～『木村家の人々』
- 8月29日(水) 13:00～『蒲田行進曲』

1995年後期

- 10月27日(金) 13:30～『シコふんじゃった』
- 11月17日(金) 10:30～『大誘拐』
- 12月8日(金) 13:30～『天国と地獄』
- 12月15日(金) 13:30～『家族ゲーム』
- 1月19日(金) 10:30～『どついたるねん』
- 1月26日(金) 10:30～『お葬式』
- 2月9日(金) 10:30～『大病人』
- 2月16日(金) 13:30～『学校』

2 留学生センター講演・討論会

1993年12月に「日本語CAIーきのう・きょう・あした」と銘打った講演・討論会を当センターにおいて開催して以来、言語教育特に日本語教育におけるコンピューターの利用と、その言語教育ソフト開発などに、次第に関心が持たれるようになってきた。しかし、まだまだ発展途上の段階であると言わねばならない。また、コンピューターやマスメディアの活用に習熟していない日本語教師の力だけでは自ずと限界がある。そこで、今回はコンピューターの機能に習熟し、それを教育に活用されている理科系の先生方やマスメディアの活用に習熟した方を迎えて、「言語教育とコンピューター＝言語教育ソフトウェアの充実を目ざして＝」と題して、以下の日程で講演・討論会を開催した。「大衆化するのか？マルチメディア教材開発」「マルチメディアにおける映像と音声」「言語用ソフトウェア」の3つの講演と「CASTEL/J'95 第1回日本語とコンピューター国際会議」の報告を基に、コンピューターを用いた日本語教育における言語ソフトウェア開発の可能性について活発に意見が交換され、学習者が絶えず増加し多様化する日本語教育において、自習用あるいは授業用のコンピューターソフトウェアの開発の必要性が、改めて確認された。従来席を同じくする機会が少なかった日本語教師とコンピューターの専門家である理科系の先生方との協力の上に、言語教育ソフトウェアなどの新たな日本語教材開発の可能性の地平が開かれた、実りの多い講演・討論会であった。講演・討論会のプログラムと参加者名簿を以下に掲載する。

広島大学留学生センター

講演・討論会 (95年11月24・25日)

「言語教育とコンピューター＝言語教育ソフトウェアの充実を目ざして＝」

プログラム

{敬称略}

11月24日 (金)

(司会：中川正弘)

- (10:00～10:05) 挨拶 (留学生センター長)
- (10:05～10:15) 出席者自己紹介
- 1. (10:15～11:00) 講演1 「大衆化するのか？マルチメディア教材開発」
(岩本正敏)
- 2. (11:05～11:50) 講演2 「マルチメディアにおける映像と音声」 (高嶋秀之)

(休憩) (昼食)

- 3. (13:00～13:45) 講演3 「言語用ソフトウェア」
(赤堀侃司)

(司会：中川正弘・深見兼孝)

- 4. (13:50～15:00) 質疑応答 (講演1～3に関する)

(休憩)

- 5. (15:15～17:00) ソフトウェア紹介
(東原義訓、成田滋、北川信博 各氏)
(他 若干名)

11月25日 (土)

- 1. (10:00～10:30) 報告 「CASTEL/J'95 第1回日本語とコンピュータ国際会議」
(加納千恵子)

(司会：水町伊佐男)

- 2. (10:40～12:00) 質疑応答・討論会 (講演・ソフトウェア紹介に関する)

(休憩) (昼食)

(司会：深見兼孝)

- 3. (13:00～14:30) 討論会 (全体会)

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

- 4. (15:00～17:00) 懇談会・見学 <自由参加>

広島大学留学生センター講演・討論会参加者

(学外)

加納	千恵子	筑波大学留学生センター
波多野	和彦	埼玉大学教育学部教育実践研究指導センター
金田	章宏	千葉大学留学生センター
宮川	康子	千葉大学留学生センター
伊東	祐郎	東京外国語大学留学生日本語教育センター
深尾	百合子	東京農工大学留学生センター
横山	節雄	東京学芸大学教育情報科学教室
赤堀	侃司	東京工業大学教育工学開発センター
小島	聡	東京工業大学留学生センター
奥山	直樹	電気通信大学留学生センター
小川	誉子美	横浜国大留学生センター
藤田	正春	上越教育大学学校教育学部
沖原	裕子	信州大学人文学部
東原	義訓	信州大学教育学部附属教育実践研究指導センター
神田	紀子	名古屋大学留学生センター
磯本	征雄	名古屋市立大学計算センター
古城	紀雄	大阪大学留学生センター
岩井	康雄	大阪外国語大学留学生指導センター
中西	泰洋	神戸大学留学生センター
成田	滋	兵庫教育大学学校教育研究センター
成藤	美智子	岡山大学留学生センター
酒井	峰男	岡山大学留学生センター
岡崎	智己	九州大学留学生センター
梅田	泉代	熊本大学留学生センター
奥村	訓	長崎大学教養部
田畑	千秋	大分大学教育学部
川平	博一	琉球大学教養部
岩本	正敏	東北学院大学工学部
平澤	洋一	城西大学女子短期大学部
米澤	宣義	工学院大学工学部
伊東	紘二	東京理科大学基礎工学部
酒井	恵美子	中京大学教養部
中川	良雄	京都外国語大学外国語学部
波平	八郎	名桜大学国際学部
高島	秀之	NHK番組制作局(学校放送番組部)
北川	信博	服部セイコー特器二部
河津	聡美	服部セイコー特器二部

(学内)

水町	伊佐男	広島大学教育学部
町	博光	広島大学教育学部
高橋	顕志	広島大学学校教育学部

※付記

留学生センター各教官の教育・研究活動に関しては今回は掲載しない。